《新刊紹介》

伊東武雄著

# 『高校古典教育の考究』

本書は、伊東武雄先生が昭和五十八（一九八三）年四月から、昭和六十三（一九八八）年三月まで勤務なさった広島県立高陽東高等学校と現在の勤務校である広島県立安古市高等学校の両校における古典学習指導の実践報告が収録されているもので、前著『高校古典教育の探求』（昭和五十八年二月一日、渓水社刊）に続いて刊行された。伊東先生は、恩師である藤原与一先生がご提唱になった読みの三段階法（素材読み、文法読み、表現読み）を、その学習指導の基軸とし拠点ともして、古典学習の実践を積み重ねてこられた。伊東先生は、それぞれの勤務校において、先生が独自に考案なさった絵画法、比較法などの指導法を導入した学習指導を展開していくことに努めておられる。

それらの指導方法は、本書の第二章に主として報告されているのであるが、以下に、それらの指導方法と、そこで扱われている教材（一部指導内容）を紹介する。

絵画法―唐詩「春暁」「竹里館」ほか七首
比較法―性善説と性悪説
要約法―「木曽の最期」（『平家物語』）
感想法―『平家物語』『徒然草』
人物紹介法―『徒然草』『平家物語』
寸評法―友人の要約や意見を読む
創作法―『徒然草』『枕草子』
手紙法―兼好への手紙
アンケート法―「方丈記」の学習を終えて

「伊勢物語」の学習を終えて

国語Ⅱ古典の学習を終えて

冊子法―学習プリントをとじる

『伊勢物語』「中国の思想」

これらの指導法を試みるにあたって、伊東先生が常に念頭に置かれていたことは、学習者に、古典学習で(1)古文では口語訳し、漢文では書き下し文を作成することができる喜び・楽しさ(2)問題を解く苦労と解決し得た喜び・楽しさ(3)作品理解を深め、自己の人生を豊かにする喜び・楽しさという三つの喜び・楽しさを経験させようということであった。それぞれの実践報告には、学習者による絵画や感想文、創作文などが資料として、しかもかなりの頁数を費やして掲載されている。学習者の反応は、それぞれの個性が前面にでているものであり、そういったものが得られたということは、ひとえに、伊東先生のご尽力の成果である。伊東先生が毎時間毎時間作成された学習プリントも一部資料として掲載されており、それらは、国語の授業を実践していく者として大いに参考にしたいものばかりである。

伊東先生は、あとがきのところで、本書に収録されている実践報告は、藤原先生の「昨今の実践発表は、こうしたらうまくいった、よくできたということが多すぎる。このようにしたがだめだった、こんなに努力したがうまくいかなかったという発表があってよい。これから、これでもだめだった、こうしてもだめだったという発表を行ったらよい。」という言葉に支えられているのだと述べられている。もちろん、伊東先生の実践は、学習者の実践を踏まえて工夫を凝らした秀逸なものであり、そこに私たちが学ぶべきことは多い。しかしながら、伊東先生が藤原先生の先の言葉に支えられながら、一つ一つの実践に取り組んできたというその姿勢もまた国語教育を志す私たちの励ましとなるものである。

すばらしき先達を得た喜びをかみしめることのできる一書である。ぜひ、ご一読いただきたいと思う。

（A5判　三六二ページ
一九九二年十二月二十日
渓水社　五、〇〇〇円）

（高尾　香織）